



JIA建築家大会2022沖縄

基調講演・シンポジウム

一般参加・入場無料

「国営沖縄記念公園(首里城公園)写真提供」

失われたことでみえてくるもの

日時:2022年10月21日(金) 14:40~18:15

会場:那覇文化芸術劇場なは一と 大劇場

主催:公益社団法人 日本建築家協会

お問い合わせ:公益社団法人 日本建築家協会 沖縄支部

電話 098-943-8949 メール info@jia-okinawa.org

※CPD対象プログラム CPD 6 単位 (JIA建築家大会2022沖縄 10/21 開催分)

※一般公開プログラムです。ぜひご参加ください。

第1部

琉球の歴史と首里城

講師 高良 倉吉

首里城に限定せず、琉球時代~復帰後の沖縄文化を包括的に、歴史家であり副知事経験者の視点から、歴史学的かつ地政学的に読み解いて話しをしていただきます。

復帰から現代の今のリアルな沖縄を知るための知的メルクマール講演に乞うご期待。

風土と建築

講師 香山 壽夫

講演会場の「那覇文化芸術劇場なは一と」の設計者。なは一との設計だけに留まらず、広義に「風土と建築」についてお話していただきます。

その場所の風土と建築との関わり方、歴史との繋がり、正に建築することの原点について考える講演であり、建築に携わる人以外の方にとっても興味深く聴くことができる講演です。

第2部

パネルディスカッション

テーマ 失われたことでみえてくるもの

コーディネーター 伊良波 朝義

パネリスト 高良 倉吉 / 香山 壽夫 / 古谷 誠章

前半:古谷誠章氏講演

長く沖縄の風土と建築の関係性をフィールドワークと深い知見で研究し、沖縄建築賞審査委員長としてまさに今の現代沖縄建築を体感しながら見てきている建築家は、現代沖縄建築をどのように評価し、これからの沖縄建築の展開にどのような視座を見出ししているのかなど、風土と沖縄建築を題材にした沖縄論的講演です。

後半:パネルディスカッション

「失われたことでみえてくるもの」と題し、琉球王朝と共に特殊な気候風土の中で育んできた異種多様な独自文化、基地と観光、自然と開発など様々な矛盾を抱えてきた沖縄は、排除ではなく寛容によりすべてを受け入れてきた真の多様性の歴史があり、失い再生してきたものこそ沖縄の輪郭(記憶)そのものであると気づかせてくれました。建築界においても多様性、持続可能な開発、保存再生が叫ばれる中、「失われたことでみえてくるもの」という視点に立った時、気づかされる何かをここ沖縄において3名の講師と全国の建築家と共に集い、問い直し、発信します。

メインシンポジウム 講師・パネリスト紹介



高良 倉吉 (たから くらよし)

琉球大学名誉教授（文学博士・琉球史）
1947年沖縄県伊是名島（いぜなじま）生まれ、
南大東島育ち、愛知教育大学卒
沖縄県沖縄史料編集所、沖縄県立博物館勤務を経て、
1988年浦添市立図書館館長就任。
1994年琉球大学法文学部教授、
2013年沖縄県副知事（2014年12月まで）を務める。
主に琉球史、特に琉球王国の歴史を研究。



香山 壽夫 (こうやま ひさお)

1937年東京生まれ、東京大学工学部建築学科卒、
ペンシルヴェニア大学美術学部大学院修了。
東京大学名誉教授、工学博士、日本建築家協会名誉会員、
アメリカ建築家協会名誉会員（Hon.F.A.I.A.）、
日本建築学会名誉会員、香山建築研究所会長。
日本建築学会大賞（2021年）、
京都市文化功労者（2017年）など。



古谷 誠章 (ふるや のぶあき)

1955年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。
同大学院修士課程修了。早稲田大学助手、近畿大学工学部
講師を経て、1994年に早稲田大学助教授に就任。1997年
より現職（教授）。1986年から文化庁芸術家在外研究員と
して、スイスの建築家マリオ・ボッタの事務所に在籍。
1994年に八木佐千子と共同してNASCAを設立。2017年～
2019年第55代日本建築学会会長。2020年～早稲田大学
芸術学校校長。2021年～東京建築士会会長。

コーディネーター



伊良波 朝義 (いらは ともよし)

1967年那覇市生まれ。琉球大学工学部建設工学科卒業。
1990～1996年内井昭蔵建築設計事務所。
1997年（有）義空間設計工房設立代表取締役。
2014～2018年琉球大学工学部非常勤講師。
2016年～NPO法人首里まちづくり研究会理事長。
2019年～日本建築家協会沖縄支部長。